

市町村広報誌特集記事に見る東日本大震災 H24.1.1-12.31

本稿は、福島県内の市町村から刊行されている広報誌のうち、平成23年3月11日に発生した「東日本大震災」に関する特集記事を採録したものである。

凡例

- ・東日本大震災に関する市町村広報誌の特集記事又は特集に準じると採録者が判断した記事を採録している。
- ・平成24年1月1日～12月31日までに発行された広報誌から採録している。
- ・記事は掲載号、ページ、記事名、特集項目名を掲載している。
- ・記事名、特集項目名は記事標題による。
- ・主に「行政機関による事業のおしらせ」や「行政機関による措置のおしらせ」を取り扱う記事は採録していない。
- ・概ね1ページに満たない特集記事は採録していない。
- ・広報誌を補完するために発行される、いわゆる「お知らせ版」については採録していない。
- ・紙面上の都合により、本誌では「県北」「相双・いわき」地域及び「県中」地域の市の広報誌のみ集録している。
- ・「県南」「会津」「南会津」地域及び「県中」地域の町村の広報紙については後日、公開の予定である。

県北地域

● 福島市

掲載号	ページ	記事名	特集項目名
1月	4-6	さらなる食の安全・安心を目指して	食品持ち込み検査の測定結果
2月	2-5	安全・安心な生活を取り戻すために～放射線対策を進めています～	その1 個人線量計(ガラスバッジ)測定結果まとまる ほとんどの方が1.5ミリシーベルト未満、 その2 ホールボディカウンターの内被ばく検査進む 94人全員、今後50年で1ミリシーベルト未満、 その3 公園の除染を進めています、 その4 食の安全を守る 放射能検査体制を強化
3月	2-5	着実に、一歩ずつ ～放射線対策～	渡利地区でも本格的な除染スタート、 市内全域の農地を除染、 3月1日～ 市内21カ所で食品の持ち込み検査を開始
4月	2-6	平成24年度当初予算 希望ある復興に向けた復興元年予算	最優先に進めます 4つの「希望ある復興」プロジェクト、6つの重点施策
5月	2-6	ふるさとの安全安心を目指して 福島市ふるさと除染計画<第1版>の見直し	福島市除染マニュアル<第1版>を見直し、 渡利地区6月末までに727戸の住宅除染を完了、 放射能検査結果のお知らせ、 市の食品の放射能測定は、新しい基準値に対応済!
6月	2-3	地域の線量の状況が分かります 全市放射線量測定マップ	平均値は毎時0.77マイクロシーベルト、 約72%が毎時1マイクロシーベルト未満、 年間1ミリシーベルト以下に
10月	2-4	「ふくしまの恵み」を召し上がれ ～農作物の安全と安心を確保～	本誌農業の復興・再生への取り組み、 出荷・流通を目的に栽培された野菜、果物など農作物の圃場別全戸検査を実施、 9月から24年産米全袋検査スタート
11月	2-4	復興に向け着実な歩みを ～全力で除染に取り組んでいます!～	独自に進める除染の取り組み、 「地域のホットスポット除染事業」を市独自に開始、 公共施設を優先的に除染
12月	2-4	元気ふくしま復興シンポジウム開催 これからも福島市で暮らしていくこと ～放射線、健康、そして私たちの暮らし～	基調講演、 パネルディスカッション 放射線と健康を考える一食と生活環境の安全確保

● 二本松市

掲載号	ページ	記事名	特集項目名
1月	2-3	[年頭のあいさつ]	新春を迎えて 二本松市長 三保恵一、 年頭のごあいさつ 二本松市議会議長 齋藤賢一

4月	2	「希望の復興 輝く未来」二本松市復興計画	施策の柱1 安全・安心のまちづくり、 施策の柱2 地域経済の持続的な発展、 施策の柱3 人づくり、地域づくり
----	---	----------------------	--

● 伊達市

掲載号	ページ	記事名	特集項目名
1月	3	平成24年年頭のあいさつ	放射能対策を一層前進させる 伊達市長 仁志田昇、 伊達らしさを発信する年に 伊達市議会議長 吉田一政
2月	4-7	特集 今年の伊達市の放射能対策 挑戦の辰年	Part1. 除染のこれまで、これから。 Part2. 健康管理のこれまで、これから。 Part3. 農作物のこれまで、これから。
3月	3-15	特集 3月12日からの当たり前 ~ 震災の教訓を生かす~	1 回想 写真と数字で振り返る、 2 反省 何が大切で何が必要なのか、 3 実行 地域に学びを生かし伝える、 4 継続 必要なことを続けていく、 5 記憶 一人一人が意識する
4月	8-11	伊達市復興計画を策定	緊急重要課題は「放射能災害からの復旧」

● 本宮市

掲載号	ページ	記事名	特集項目名
1月	3	謹賀新年 年頭のごあいさつ	本宮市長 高松義行、 本宮市議会議長 作田博
4月	2-3	本宮の未来を担う子どもたちのために 本宮市復興の集い2012開催	みんなで力をあわせて復興へ
9月	3	懐かしい汽笛の音響かせ	SLふくしま復興号走る

● 桑折町

掲載号	ページ	記事名	特集項目名
1月	2-3	新年ごあいさつ	「復興・再生」元年 桑折町長 高橋宣博、 地震災害・原子力災害からの早期復興を目指して 桑折 町議会議長 半沢高
	4-5	桑折町農地等放射性物質低減化対 策 今年の生産に向け、いま、果樹 除染に取り組んでいます	
4月	2-7	桑折町総合計画「復興こおり創造プ ラン」	重点的な取り組み、 町長 interview、 審議会委員に聞く！
5月	7-11	みんなの心を一つにして新たな一歩	テーマ「震災と原発事故を経験して思うこと」、 子どもたちの「心の健康」への配慮と早急な除染を、 通学路などのいち早い除染とこどもの健康管理を、 福島県の農産物が見直される時期が来ると信じ、今よりも もっと安全でいいものを作り続ける！
6月	2-7	故郷や、未来を担う子供たちへの思 い語る 町の放射能対策について意 見発表	「私たちの日常を取り戻すために」、 「僕が今、思うこと」、 「みんなが安心して過ごせる町に」、 「健康で安心な町に」、 「一日も早い除染を」、 子どもたちに責任ない 行政・町民一体となり子どもたち 守って、 故郷に求められるもの 放射能汚染の心配がないというこ とが最低条件、 町民会議への支援 私たちに何が出来るか 世界への発 信につながる、 農家の「声なき声」聞いて
7月	2-5	町民みなさんの健康管理に、全力で 取り組みます	ホールボディカウンタQ&A、 今年度もガラスバッジによる外部被ばく測定を行います、 インタビュー、 放射能に負けない！ 「免疫力アップ講座」を開催
8月	2-5	要望書提出から2カ月 7月6日、東 電回答。	

9月	2-3	念願かなって今年が出来た！ 小学校の夏休みプール開放	
----	-----	----------------------------	--

● 国見町

掲載号	ページ	記事名	特集項目名
1月	2-3 4-5	平成24年年頭のごあいさつ 第5次進行計画とともに動き出す 国見町復興計画(第一次)	国見町長 佐藤力
4月	2-3	3・11から一年	町の元気を取り戻す 開催 国見おもしろ再発見！、 3.11を忘れない 3.11震災からの復興と希望の集い、 今年を復興元年として！ 国見町長 佐藤力
6月	2-3	全国赤十字大会で報告	被災者を支援するボランティア活動を報告、 震災後の活動の様子、 大会を終えての感想
7月	2-3	国見町振興計画と復興計画の目標達成に向けた町民意識調査	
	4-5	除染がはじまります	公共施設16カ所を実施、 住宅除染には仮置場が課題、 実施可能な森林(生活圏)に着手

● 川俣町

掲載号	ページ	記事名	特集項目名
1月	2-3	迎春	協働の取り組みでこの難局を乗り切る 川俣町長 古川道郎、 いまこそ…町民の期待に応える議会を目指す 川俣町議会議員 新関善三
4月	2-3	川俣町復興計画 第1次概要	
	4-7	思いを一つに。一歩ずつ前へ…	川俣町を取り戻す、 町の決意を手渡す、 町民の声
5月	2-5	私たちの安全な生活を取り戻す	除染 生活圏、 除染 農地、 除染 工程
9月	2-5	安全・安心を取り戻す第一歩	川俣町の除染方針

● 大玉村

掲載号	ページ	記事名	特集項目名
1月	2-3	新年あけましてめでとうございます ～2012年 年頭のごあいさつ～	大玉村長 浅和定次、 大玉村村議会議員 佐藤悟
3月	2	3.11 あの日を忘れない “大玉村復興の集い”開催！ ～みんなで取り戻そう 元気な大玉村～	
5月	6-7	大玉村復興計画 策定	

県中地域

● 郡山市

掲載号	ページ	記事名	特集項目名
1月	2	震災からの復興に向けて	郡山市長 原正夫
	3-7	絆 -あの日から歩き出す-	ふるさとの絆 西田敏行さん、 昔からの縁が取り持つ姉妹都市との絆 奈良市・久留米市・鳥取市・ブルメン市、 音楽が結んだ絆 東京都交響楽団、 ともに復興を食が結んだ絆 がんばっぺ福島フェスティバル、 未来ある子どもたちへつなぐ絆 PEF Kids Koriyama
2月	2-3	魅力と活力ある郡山の創生に向けて「郡山市復興基本方針」による迅速・効果的な復興を	
	4-5	さらなる除染を進めます 郡山市ふるさと再生除染計画(初版)	
3月	2-3	特集 郡山の復興へ向けて ～東日本大震災から1年～	郡山の復興 この1年、 待ちに待った公共施設のオープン、 大震災を経験して、 農産物の検査 これまでの結果と今後の体勢、 被ばく量の低減に向けて 市内の放射線量は
4月	2-7	平成24年度当初予算 ～ふるさとの再生に向けて～	1 原子力災害対応、 2 市民生活の再生、 3 防災対策の再構築、 4 産業の再生・発展と雇用の創出、 5 新たなエネルギー社会の構築、 その他の主な事業
	8-9	安心できる生活環境を取り戻すために	
5月	2-5	～モデル除染・食の安全・積算線量測定～ 安全・安心な生活環境を取り戻す	食の安全確保、 個人積算線量の測定
6月	2-3	放射線健康管理センターで6月7日(木)から検査を開始 ～市民の皆さんの健康管理に取り組みます～	
	4-5	子どもたちの安全・安心のために～各所で進む除染～	
7月	4-7	住宅地の除染へ 安全・安心 こおりやまへ全力!	
11月	2-3	～平成23年度決算報告～ ふるさと郡山の復旧・復興に向けて	

● 須賀川市

掲載号	ページ	記事名	特集項目名
1月	2-3	2012. 1. 1 謹賀新年	今こそ須賀川の力を・・・ 未来 そして 子どもたちのために 須賀川市長 橋本克也、 復興へ向けて着実な一歩を 須賀川市議会議長 鈴木忠
	4-7	市震災復興計画を策定 共有、共感、共生へ とともに築く復興都市すかがわ -私たちの手で 創造的な復興への取り組みを-	

3月	2-9	広報座談会・東日本大震災から1年 ー市震災復興計画に基づくまちづくりー 市民と行政との協働による復興を	「市震災復興計画」の策定には市民の皆さんの様々な声を反映、 江戸時代からの自治都市・須賀川は自立した意識が根付くまち、 復興は財源、スピード感、法規制などの問題が、 農業分野は大胆な発想の転換と目標のあり方の明治が必要、 子どもたちの遊び場の確保に不安、 行政機能の集約と農業生産基盤の復旧は急務、
4月	2-3	共有、共感、共生へ ともに築く復興 都市すかがわ ～今こそ須賀川 の力を… 未来 そして こどもたちの ために～ 復興へ…。市民の皆さん とともに	「市震災復興計画」に基づくまちづくり 当面する主な課題・重点事項、 「市震災復興計画」に基づくまちづくり・主要施策1「原子力災害対策」、 「市震災復興計画」に基づくまちづくり・主要施策2「市民生活の再建」、 「市震災復興計画」に基づくまちづくり・主要施策3「産業の復興」、 「市震災復興計画」に基づくまちづくり・主要施策4「安全・安心なまちづくりの推進」
5月	2-3	東日本大震災復興特別区法の概要 さらなる復興の推進を目指して	
8月	2-7	広報座談会ーみんなで力を合わせ 物産品など販路を拡大 風評に負けない! 元気な須賀川 安全・安心を ピーアール	風評被害払拭のための物販活動に多くの皆さんが協力、 常設の販売場所の確保と良好な経済環境の構築を、 自分たちの住む地域の魅力を十分に理解することが大切、 須賀川の復興は市民総力戦で

● 田村市

掲載号	ページ	記事名	特集項目名
1月	2-3	新春 平成24年年頭のごあいさつ	ゆるぎなき復旧復興の道を 田村市長 富塚宥暁、 心とむ未来を願って 田村市議会議員 菅野善一
5月	2-5	財政公表 24年度は除染対策を進めます	
7月	2-4	放射線とその影響を知ろう	放射線の仕組み、 セシウム、 ベータ線とニュートリノ、 ガンマ線、 半減期、 ベクレル、 シーベルト、 自然放射線
	5	ホールボディカウンター(WBC)を設置 内部被ばく検査を始めました	
8月	4-5	続放射線とその影響を知ろう	生物への影響、 放射線のリスクとほかのリスク、 講演会で参加者から出された主な質問と回答
9月	4	稲を作付けしている皆さんへ 米の 放射性物質検査を開始	24年産米の検査、 モニタリング検査、 全量全袋検査

相双・いわき地域

● 相馬市

掲載号	ページ	記事名	特集項目名
1月	2-3	2012年 年頭のご挨拶	相馬市長 立谷秀清、 相馬市議会議員 佐藤満
	4-7	農作物に含まれる放射性物質の測定結果	
3月	2-3	食品に含まれる放射性物質の測定結果概要	
6月	2-3	被災された方々の移転候補地 造成など進捗状況	
7月	2-3	開始しました ホールボディーカウンター検診	
8月	2-3	相馬市での除染の進め方	
10月	2-3	玉野地区で除染を進めています	
11月	2-3	原釜・尾浜地区の防災緑地整備	
12月	2-3	復興への祈り込め開催 そうま市民まつり	

● 南相馬市

掲載号	ページ	記事名	特集項目名
1月	2-3	市民の皆様へ	安全と安心の確保を 南相馬市長 桜井勝延、 一日も早い復興に向けて 南相馬市議会議員 平田武
2月	4-5	パブリックコメント 意見の集約と計画の概要 南相馬市復興計画	
3月	2-5	震災から1年 復興に向けて心をひとつに	復興に向けての第一歩を 南相馬市町 桜井勝延、 東日本大震災から1年 医療現場からの視点、 撮影枚数は6万枚超 押し続けたシャッター 市長公室すぐ にやります課、 子供たちを楽しませたい 相双神旗ディネード 勝つんじや ない。生きるんだ。 3月11日に生まれた子供たちに たくましく未来へ 君の 椅子プロジェクト
4月	2-3	あの日を忘れない 追悼。そして未来へ、復興へ	南相馬市東日本大震災追悼式
5月	2-3	鹿島区の沿岸部 津波による甚大な被害があった地域を災害危険区域に指定しました	
6月	2-3	原町区 沿岸部の一部 津波による甚大な被害があった地域を災害危険区域に指定しました	
7月	2-4	ふれあい懇談会 13回開催 皆様のご質問にお答えします	除染、 集団移転・災害公営住宅、 災害危険区域、 復旧・復興・帰還
10月	2-3	第34回少年の主張福島県大会 震災から感じたこと、思ったこと	わたしの引き出し、 「日本人の品格」を受け継ぐ者として

● 広野町

掲載号	ページ	記事名	特集項目名
4月	2-3	避難指示解除にあたって ～町民の皆様へ～	広野町長 山田基星
	8-10	広野町復興計画	

5月	2-5	施政方針にみる新年度の町政と重要項目	第一は「除染推進」、 第二は「生活環境の整備」、 第三は「保健福祉の充実」、 第四は「産業の振興」、 第五は「教育、文化の振興」
7月	2-7	復興に向けて	復興交付金配分額の決定、 被災された方々の住宅整備
8月	2-3 4-5 6-7	町長インタビュー 一歩ずつ前へ 復興に向けて一歩ずつ 今こそ心ひとつに	
10月	2-3	平成24年度 2学期から学校再開 ここからがスタート	
11月	2-3	町民の皆様の帰還に向けて	広野町町長 山田基星
12月	4-5	農業の復興に向けて	全袋検査の結果、 全袋検査の公表、 農地除染

● 楢葉町

掲載号	ページ	記事名	特集項目名
4月	2-3	地震・津波災害と原子力災害を克服し、一日も早い復興と新しい楢葉の礎をつくるために	
8月	1-2	警戒地域見直し	
9月	1-2	警戒地域見直し	
10月	1-2 3-4	野田首相、楢葉町除染現場を視察 復興へ向け「楢葉町復興推進委員会」を設置	
12月	1 2	福島県知事 郡内首長と被災地視 国の復興推進委員会楢葉町を視察	

● 富岡町

掲載号	ページ	記事名	特集項目名
3月	2	町民の皆さまへ 望郷 私たちを待ち続けるふるさと富岡	富岡町長 遠藤勝也
	3	3・11を忘れないー東日本大震災追悼式	
	4-5	東日本大震災ー忘れえぬ記憶、そして復興へ	
	6-11	my home town TOMIOKA ~あの日から未来へ、私の歩み~	
5月	14-17	TOMIOKA桜通信 第1号	
6月	8-11	TOMIOKA桜通信 第2号	
7月	2 8-11	町民の皆さまへ TOMIOKA桜通信 第3号	
8月	8-11	TOMIOKA桜通信 第4号	
9月	2-3 6-11	町民意向調査中間報告 TOMIOKA桜通信 第5号	
10月	2-12 22-27	[町から国への要望と質疑応答] TOMIOKA桜通信 第6号	
11月	2 18-23	町民の皆さまへ TOMIOKA桜通信 第7号	富岡町長 遠藤勝也
12月	2 8-13	町民の皆さまへ TOMIOKA桜通信 第8号	富岡町長 遠藤勝也

● 川内村

掲載号	ページ	記事名	特集項目名
11月	2-3	天皇皇后両陛下下ご訪問 除染現場視察、下川内応急仮設住宅入居者へお声かけ	

● 大熊町

掲載号	ページ	記事名	特集項目名
1月	1	新年のごあいさつ 強い意志で復興に臨む	大熊町長 渡辺利綱、 大熊町議会議員 千葉幸生
4月	1-5	「町民主体の復興」を目指して	大熊町長 渡辺利綱
7月	2-5	町民アンケート調査の中間結果速報	
9月	2-3	双葉地方及び福島県と国との協議会が開かれました	
10月	2-9	町民懇談会を開催しました	
12月	2	大川原地区の先行除染が始まります	

● 双葉町

掲載号	ページ	記事名	特集項目名
1月	2	希望の見える年に	双葉町長 井戸川克隆
	3	絆—きずな—	双葉町議会議員 佐々木清一
	4-5	観測史上最大 M9.0の巨大地震	東日本大震災—3月11日からを振り返る—
4月	2-3	町長施政方針	

● 浪江町

掲載号	ページ	記事名	特集項目名
1月	2-3	謹賀新年	迎春 浪江町長 馬場有、 新年を迎えて 浪江町議会議員 吉田数博
	4-7	復興に関する町民アンケート	
	16-23	浪江のこころ通信 第7号	離れて暮らせど、心はいつも浪江にあり、 今度会うときは元気で会おうね、 みんなでまた一緒に暮らしたい、 戻れるものなら明日にでも戻りたい気持ちです、 「十日市」で友だちに会えてうれしかった、 妻、京子さんの京月窯再興にこぎつけ、次は自身の今後 も、 ここ笹谷は本当にいいところ 人情の厚さが身に染みます
2月	17-27	浪江のこころ通信 第8号	「ありがとう高島」 僕たちは、前を向いて進む、 浪江・請戸のきれいな星空、そして隣近所とのつながりが なつかしい、 子供が独り立ちしたらふるさと浪江に必ず戻りたい—県外 避難者の生活への理解を—、 「一陽来復」を心の支えに、 震災前の仲間たちと元のように暮らしたい、 子どもたちが戻れる浪江町になって欲しいと願っていま す、 希望の光をみつけるまで、 今年暮れまでは、私も桑折町自治会も正念場になりそう です、 「町のしっかりした方向性をきちんと決める」…難しいこと はわかっているけど、やっぱり今一番考えたいことです
3月	2-3	東日本大震災から1年	
	12-23	浪江のこころ通信 第9号	「家族一緒に暮らしたいな」、 子どもたちの笑顔が一番、 「この震災がもたらした真実とは何か」 子どもたち、そして 社会に向けて発信していきたい、 震災で直面したさまざまな経験を子どもたちの人生の糧に してほしいと願う、 お店をオープンしました 常連さんも増えていますよ！、 「浪江は私たちのたった一つのふるさと」 娘の言葉に思い を新たに、 みんな元気になっていますか？、 土地は変われど剣道でつながる絆！、 窯を始めて100年目を二本松で再スタート、 初心に帰って始めてみよう

	4-7	震災に関する子ども向けアンケート 集計結果	
4月	16-21	浪江のころ通信 第10号	<p>故郷・浪江への思いを歌に込めて—この福島 of 厳しい現実を風化させないためにも—、 「また請戸の海を眺めたい」、 2011年内に「壽」を届けたい、 一緒にバレーボールをしませんか、 人の力の大きさとつながりを感じて前向きに再オープン</p>
5月	12-15	浪江のころ通信 第11号	<p>心まで温まる川上温泉に皆さんお越しく下さい、 「コーヒータイムがみんなの希望に」、 浪江の復興は、小さな取り組みの積み重ねから</p>
6月	14-23	浪江のころ通信 第12号	<p>浪江の皆さんに会いたい、 生活再建を模索する日々、 今を頑張りながら、楽しく過ごしたい、 楽しく遊ぶ子供たちの姿が、前向きな気持ちの応援に、 「会津地方なみえ会」発足で絆づくりを、 大切な家族と一緒に、 娘が請戸の田植え踊りを練習中。7月のお披露目が楽しみ！、 前向きに暮らすことを心がけています、 三春から「きよはし」の名前に思いを込めて</p>
7月	18-27	浪江のころ通信 第13号	<p>浪江の心や経験を今の生活に活かしたい・伝えたい、 まずは家族を大切にすること そしてこれからの浪江町を担う若手を応援したい、 今の生活から一歩踏み出すために—記憶の中にあるふるさと浪江が心の支えに—、 胸を張って生きて生きたい、 浪江のみんなと手と心を繋いで毎日を元気に、 帰りたい想いと、現実との間で、 今までは守っているつもりでしたが、いつもお互いが支えあっていることに気づかされました、 また両親、兄弟、従兄みんなが集まりたい、 ふるさとを語り継ぎ、ふるさとの絆を繋いでいきたい</p>
8月	15-23	浪江のころ通信 第14号	<p>畑を耕しながら、心も耕しています、 人の縁を大切に、残りの人生を笑顔で、 浪江町の復興を願って、今を前向きに、 子どもたちの安全を確保できる場所に、復興の拠点を、 私にできることを、私らしく、実践していきたい、 いわき市に住居物件を探しています、 やっぱり福島はいいところ、福島県民はいい人、 今はたくさん友達を作って元気に頑張っていく—いつか浪江に帰って友達と会いたい—</p>
	14-15	まちは今	
9月	19-27	浪江のころ通信 第15号	<p>今の生活を少しでも前に進めたい—「帰りたいけど帰れない」長く続く戸惑いの時間—、 子どもたちの笑顔と浪江町の思い出を支えに、 浪江に帰れるまで、山形で頑張ります、 心安らかに、明日を考えたい、 懸命に働くことが、明日の復興につながる、 小石饅頭を再び届けたい</p>

10月	23-31	浪江のころ通信 第16号	浪江の家と愛犬の住む原町の近くに、早く行きたい、浪江で交流していた仲間が近くに居て、心強いです、妻が内緒でここ数年の私の作品(打刃物)を毎年大事に取っていてくれたので、こうして持ち出すことができました、懐かしい人との再会を心待ちにしつつ、ただいま子育てに奮闘中、全日本ジュニア綱引選手権大会で銅メダルを取りました、会えなくとも、浪江の仲間とつながっていたい、現在進行形の原因事故。その危険性から目をそらさず、行動し続けたい、震災前のように、一杯やりながら仲間とまちの未来について語り合いたいなあ、笑ったり励ましあったりできるお店にしていきたい
11月	20-27	浪江のころ通信 第17号	風薫る彼の地に思いを寄せて、なんとか頑張ってます、もどには戻れないけれど、前を向いて歩こう、悪いことばかり考えても仕方がない、不安の中からも良いことを探そう、先は見えないけれど、それでも今は頑張っていくしかない、浪江の思い出は人とのつながり、東京の東雲で、支えあって暮らしています。
12月	21-27	浪江のころ通信 第18号	たくさんの人に支えられ、4人の子どもたちから元気ももらって、孫たちの将来に期待し、自分たちの暮らしを楽しみたい、浪江の皆さん、元気で暮らしています、消防団の皆さん、行きつけのお店「ブラカイ」でまた楽しく飲める日を楽しみにしています、浪江の人に会うたびに「健康との戦いですよ」励ましています、新たな仲間とともに趣味を楽しむ

● 葛尾村

掲載号	ページ	記事名	特集項目名
6月	2	「広報かつらお」復刊にあたり	葛尾村長 松本允秀
8月	2-3	先行除染事業 せせらぎ荘の除染完了	放射線濃度 事前調査および事後調査結果
9月	2-9	住民説明会開催	除染、賠償、応答
10月	2-3	平成24年度第1回住民懇談会	住民に見直し案示す
12月	4-5	葛尾村復興計画(第1次)がまとまる 村民一人ひとりの生活再建とふるさと「かつらお」の繁栄をめざして	

● 新地町

掲載号	ページ	記事名	特集項目名
1月	2	生活再建と復興に向けて	新地町長 加藤憲郎
	3	明るい光を取り込みながら	新地町議会議長 目黒静雄
	4-5	復旧と復興に17億5千4百万円を補正	除染、賠償、応答
2月	2-5	第一次新地町復興計画が決まりました	THEME. 1 安心・安全なまちづくり、 THEME. 2 仕事の復興、 THEME. 3 住宅・暮らしの復興、
4月	3	3月11日 東日本大震災から1年 新地町追悼式	
	4-5	復興に向けた予算編成	
5月	2-3	図書館が全面再開	

6月	1-11	道	PROROGUE【道】、 第1章 むざんなこの光景を見て、 第2章 やっぱり これが生命に導く道だった、 第3章 子供の使命、 EPILOGUE 歩け、歩け
9月	4-5	新地町少年の主張大会	ちよつと立ちどまって
10月	2-3	新地町少年の主張大会	未来を開く技術

● 飯館村

掲載号	ページ	記事名	特集項目名
1月	2-3	年頭のごあいさつ	飯館村長 菅野典雄、 飯館村議会議長 佐藤長平
	4-5	飯館村民の避難生活に関する実態調査最終報告書	大熊町長 渡辺利綱
3月	2-7	地震から1年をふり返る	3月 地震の発生と避難所の開設、 4月(1) 計画的避難区域への指定、 4月(2) 全村の被災者証明の発行と東京電力の謝罪、 5月 計画的避難の開始、 6月 いいたて全村見守り隊発足 役場機能の飯野出張所移転、 7月～8月 仮設住宅への入居進む、 9月 飯館村敬老会の開催、 10月 住民懇談会の開催 復興計画の策定開始、 11月 小宮行政区住民対象の除染計画説明会を開催、 12月 国による除染モデル実証事業の開始、復興計画の完成、 平成24年1月～2月 住民懇談会・いいたて村民ふれあい集会の開催、 お話を伺いました、 1年をふり返って
6月	2-5	震災前の飯館村を取り戻すために本格除染に向けた住民説明会が開催されました	本格除染での主な除染方法、 農地の除染対策実証事業
7月	2-5	帰村についてのアンケート結果 まとまる	1. 避難の状況、 2. 仕事について、 3. 生活の状況について、 4. 子どもの教育や通学について、 5. 村の除染について、 6. 帰村について
	6-7	避難区域が7月17日から変わります	
8月	2-5	特集・復興への道を歩き出すために	除染、 3つの避難指示区域に再編されました、 情報タブレット端末の配布を行っています
10月	2-3	「いいたてまでいな復興計画(第2版)」を策定	
11月	3	村の避難指示解除見込み時期 国と合意	
12月	2-3	本格除染始まる～復興を着実に進めるために～	須萱地区の除染 始まります、 11/9 現地モニタリング調査を実施
	4-5	結果報告 除染後の農作物試験作物付け すべて「検出下限値未満」	野菜の露地・ハウス、水稻の栽培試験を実施

● いわき市

掲載号	ページ	記事名	特集項目名
1月	1	新年のことば 「ふるさといわき」の再生に向けて ～日本の復興を「いわき」から～	いわき市長 渡辺敬夫

2月	2-5	「いわき市復興事業計画」を策定	取組の柱1 被災者の生活再建、 取組の柱2 生活環境の整備・充実、 取組の柱3 社会基盤の再生・強化、 取組の柱4 経済・産業の再生・創造、 取組の柱5 復興の推進、 重点施策、 復興事業計画の見直しと進行管理
	8-9	「いわき市除染実施計画」を策定	除染の方針、 除染の実施、 除去土壌等の処理
3月	8-9	自家消費用作物の放射能の測定結果がまとまる	検査方法と検査件数、 検査結果、 出荷用作物との比較、 今後の検査
	10-11	いわき市内の放射線量マップ	
6月	2-3	市内放射線量の今を知る	市内四百七十四カ所で放射線量を常時測定、 事故発生直後から現在までの放射線量の推移、 市内二十一カ所で自家消費用作物等の放射能検査を実施
7月	2-3	社会基盤等の復旧に向けて	昨年十月に氏復旧計画を策定、 平成二十三年度末の進捗状況は約七割、 平成二十五年度復旧完了を目指して
	4-5	内部被ばく検査・自家消費用作物等の放射能検査を実施しています	内部被ばく検査結果がまとまる、 放射線健康管理センターが実施するその他の検査結果、 自家消費用作物等の放射能検査結果がまとまる、 販売されている農作物などの検査
9月	2-3	本格除染に向けたモデル事業を実施	七件の除染を実施、 除染作業の主な内容、 効果の検証、 今後の除染の進め方
10月	6-7	いわき産米の全量全袋検査を実施	全量全袋検査とは、 市内における検査の概要、 全量全袋検査の流れ、 精米袋へ検査済ラベルを貼付、 検査結果の公表
11月	2-3	震災時の情報入手などに関するアンケートを実施 ～その時、どんな情報を求め、どのような行動をとったのか～	
	4	来年度末の入居開始を目指し、災害公営住宅を整備	全体で千五百戸の災害公営住宅を整備、 集合住宅と戸建て住宅の整備方針・割合
12月	1-2	復旧・復興の動きが加速へ	ガントリークレーン新設・供給開始、 災害公営住宅の建設を開始、 海岸災害復旧事業が着工、 津波被災地区における家屋基礎の解体撤去

<地域資料チーム:二瓶優>